

飲料への支出

- 家計調査(二人以上の世帯)結果より -

夏も本番となり、冷たい飲み物がおいしい季節です。皆様の御家庭では、こういった飲み物をよく飲まれますか？今月は家計調査(二人以上の世帯)の結果から、飲料^{注)}への支出について見てみましょう。

注) 茶葉やコーヒー豆等を含む。

気温の上昇とともに支出金額も増加

まず、平成17年の1世帯当たりの飲料への支出額について、1年間を通してみると、やはり夏場に多くなっています。また、新茶が出る5月に、茶類への支出額が多くなっています。一方、コーヒー・ココアは季節にあまり関係なく購入されています(図1)。

葉から淹れる？そのまま飲む？

次に、茶類について、世帯主の年齢階級別の支出額(年計)を見てみます。

世帯主の年齢が高くなるにつれ、茶類への支出額が多くなっています。品目別にみると、緑茶はその傾向が顕著であり、29歳以下の世帯に対して、70歳以上の世帯は約16倍となっています。

しかし、これは若年層において茶類が敬遠されているわけではなく、ペットボトルなどに入った「茶飲料」では、高齢層よりも支出金額が多くなっており、若年層では手軽にすぐ飲める飲料が好まれていることがわかります(図2)。

ミネラルウォーターへの支出額、1位は沖縄地方

最後に、購入が一般的になりつつあるミネラルウォーターについて、地域別に1人当たりの支出額(年計)を見てみます。

最も多いのが沖縄地方であり、最も少ない東北地方と比べると、約3倍の支出額です。傾向としては、気温が高い地域でより多く購入されています。また、関東、近畿地方で多く購入されているのは、水道水の味への不満が、理由の一つとして考えられます(図3)。

図1 1世帯当たりの飲料への支出額(平成17年)

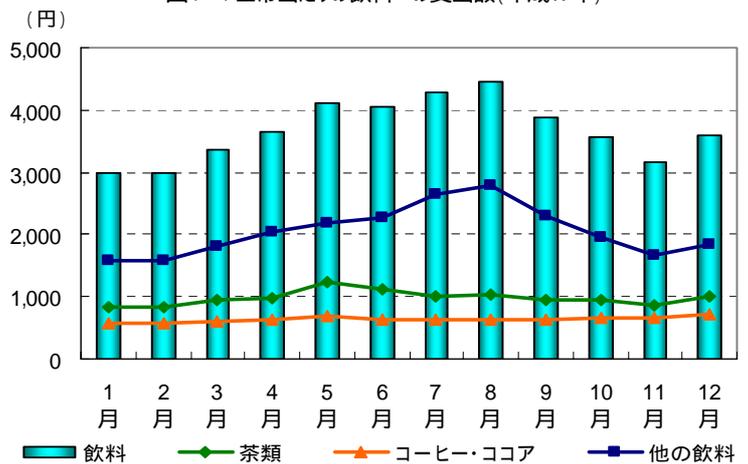


図2 茶類の年齢階級別支出額(平成17年)

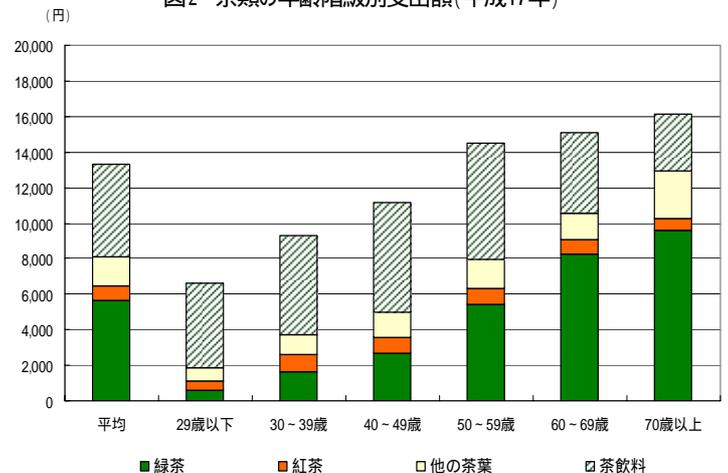


図3 ミネラルウォーターに対する1人当たりの支出額(平成17年)

